



ごあいさつ

この度代表理事を仰せつかりました本淨謹士（ホンジョウキンジ）と申します。皆さまご存じとは思いますが、前代表理事関田さんの急逝は大変残念でなりません。あらためてここにご冥福をお祈りいたします。告別式当日が予定していた理事会であったのも何かのお導きでしょうか、その場で当方が代表に選出された次第です。

さて、新型コロナウイルス感染という、予期せぬ事態に際し、その理由は多岐に渡りましょうが子どもたちにも種々の影響が出ているように思われます。この事態の中、状況の変化に大人も子どもも必死に適応しようとしているのではないのでしょうか。

このウイルス感染蔓延がなくても、いつの時代でも我々は頑張っ、いや相当頑張らないと求められる適応状態を

保てない状況になってはないでしょうか。その中で、しんどい思いを発信しにくい、受け入れにくい環境になっていないか、大いに危惧されるところです。

我々チャイルドラインは、子どもの話を聴かせていただくことで、その気持ちを受け入れる、その子どもの存在を肯定し続ける存在でありたいと考えます。このことが将来生きていく上で不可欠な、自己肯定感を維持した人間形成に少しでも役立てになればと考えます。

会員の皆さまには今後もお力添えをいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いたします。



代表理事 本淨 謹士

「受け手」継続研修を開催

2021年10月24日に受け手継続研修を行いました。参加者は13名。久しぶりの対面での研修になりました。

前半は、支え手と受け手が両輪であるように、なんでも話せるいい関係を築くため、開設を通して日頃思っていることや困っていることなどないか、話し合いをしました。

後半は、「友だちを叩いてしまった」という内容の電話がかかってきたと想定し、ロールプレイの実演をしながら、話の聴き方を振り返りました。

『子どもが沈黙した場面でどうするか』については、「2～3分待つ」「また話せるようになったらかけてね、と声をかける」「そのまま待っていた方がいいか聞く」などの意見が出ました。

また、「叩いてしまった」と言った事柄を聞いて「それはいけないことだ」と思い、そう伝えたいこともありますが、それは受け手としての自分の気持ちを優先していることになってしまいます。

もちろん、社会のルールは大切です。しかし、まずは自分の気持ちは置いておいて、子どもを主体に考えること。子どもが今、どんな気持ちで電話をかけたのかを、子どもの発した言葉から悟ることが大事であるということ。受け手は「私」ではなく「チャイルドライン」として電話を受けること。などを再確認しました。

一生懸命聴けば、どんな相手でも響くことを信じて、子どもたちの声に寄り添っていこう。と改めて思える研修でした。



ご寄付のお礼 (2020年8月～12月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

<企業・団体の皆様>

○中島工務店 様	30,000 円	○医療法人めばえ	10,000 円
○谷岡内科小児科 様	10,000 円	○さたけ小児科	10,000 円
○田村子どもクリニック 様	10,000 円	○医療法人島崎健やか会	10,000 円
○高知とさみずきライオンズクラブ 様	10,000 円		
○食家「雅」様	3,000 円 (寄付つきメニューより / 7～9月分)		
○ハイカラ万々店 様	7,400 円 (寄付つきメニューより 9月までの分)		

<個人の皆様>

前田賢人 様 澤田敬 様 澤田由紀子 様 吉川清志 様 松崎淳子 様 藤波幹也 様
増本正人 様 森澤豊 様 ほか匿名 4名

◆会員数

(2022年1月1日現在)

活動会員 46人
支援会員 35人・団体

「チャイルドラインこうち」寄付つきボールペンを販売していただいていた内田文昌堂様が2021年12月26日に閉店されました。

2018年3月から2021年12月までの間に、88本(11,480円)販売していただき本当にありがとうございました。

中四国エリア 24時間キャンペーンを実施

2021年11月20日(土)16時から27日(土)16時まで、中四国エリアでチャイルドラインを実施している12団体合同で、24時間キャンペーンを実施しました。

この24時間キャンペーンは、「今こそ子どもたちにチャイルドラインを！～今の気持ち聴かせて～」をテーマに、期間中の1週間168時間連続で中四国エリア実施団体が連携して電話開設を行い、子どもの声を聴くものです。

チャイルドラインこうちも実施団体として、通常の開設日時に入れ替えを行い、キャンペーン期間中のうち3日間計10時間、延べ10人の受け手・支え手が参加して開設協力を行いました。また、24時間キャンペーン用のチャイルドラインカードを作成し、学校を通じて子どもたちに配布しました。

キャンペーン期間中、中四国エリア合計で468件の電話を受信しました。うち高知からは8件と少なめでした。

中四国エリアの受信の時間帯は、チャイルドラインが通常開設している16時から21時までが最も多かったのですが、21時台から22時台まで、9時台から15時台までの受信も一定数あったほか、夜中の受信もあったことから、24時間キャンペーンを実施した効果もあったといえます。

子どもたちに配布したカード



チャイルドラインこうちにかかってきた子どもたちの声を紹介します。

(※全国の子どもたちからの声です。チャイルドラインこうちで受ける電話には、全国の子どもたちからの声が届きます。)
(※プライバシーに配慮して、内容を再構成しています。)



友だちとは普通に会話するけど自分のこと、悩みなどは話さない。だから聞いてもらえると嬉しい。話しやすかった。

母が入院した。父親は必要以上に明るく接してくれる。祖父は家事を手伝ってくれるけど、お酒の量が増えて心配。今の気持ちを聞いてほしくて電話した。たくさん泣けてありがとうございました。今の気持ちを父親に話してみます。



小学生の頃いじめの現場に出くわし、自分は加担していないが、記憶が曖昧になり、数年後自分も悪いことを言ったのではないかと不安になる。

友だちと遊んでいてケンカになった。私は間違っていないのに友だちは怒っている。間違っていないけど謝らないといけないのかな？



下着の話になり、ブリーフをはいていてからかわれている。嫌な気持ち、どうしたらからかわれなくなるかな？

友だち同士で金銭トラブルがあり、学校に行けなくなった。行きたいけど体が震えてくる。どうしたら学校に行けますか？

お母さんとケンカして家を出た。私はいつも我慢してるけど初めて言い返した。そしたらお母さんがヒステリックにすごく怒って。家に帰らないといけないですか？

知り合った人と電話したり映画を見に行ったりした。LINEで電話すると言ったけど、電話がなく心配、どうしたらいいですか。こちらから電話してもいいと思いますか？

